

受け継いだ神事 その伝統を守り抜く

地域の宝を大切に 一歩ずつ着実に後世へ――



米川の水かぶり保存会
会長 菅原 淳一さん(62)

地域の小さな行事が世界の宝として認められ、うれしく思っています。

人は火を扱うことによって、文明を発達させてきました。火伏せは、火が恩恵をもたらした災いにならないように、神様の姿を借りて祈願する行事です。また、厄払いや成人儀礼などの意味合いもあり、地区住民の団結を強める役割も果たしています。

保存会は、1991年に県の文化財指定を受ける際に設立しましたが、当時会長を務めていた私の父親は「知名度が上がら、注目されることで地域の伝統行事が崩れていく」と心配し

ていました。間違った説が流れることもあるので、正統な伝統を継承していくために、語り継いできた行事の由来や内容をまとめ、インターネットを活用して紹介しています。

水かぶりは観光イベントではなく、地域で古くから大切に伝承してきた神事です。ユネスコ無形文化遺産への登録は、とても名誉なことですが、私たちはこれからも変わることはありません。地域の宝を大切に、後継者を育てて一歩ずつ着実に継承していきたいと考えています。そして、多くの人に知ってもらい、地域の活性化につなげていきたいです。

伝統と誇りを胸に

ユネスコ無形文化遺産に登録された「米川の水かぶり」。本当に大切なことは、先人から受け継いだ伝統をこれからも伝承し続けていくこと。

参加できるのは五日町地区に縁のある男性だけだが、私たち市民が登米市の宝として見つめ直し、これからも大切にしていかなければならない。

市民一人一人がこの歴史と伝統に誇りを持ち、神事の意味と意義を伝え続けることが、後世に伝承する大きな力となり、来訪神は次の冬もまた舞い降りる――。



— 2019年米川の水かぶり —
日時：2月2日(土)9:30～
場所：法輪山大慈寺山門広場
圏東和総合支所市民課(地域振興係)
☎0220(53)4111

Interview



武田小町さん(東和中3年)
(東和町米川2区)

登録されることで、たくさんの方が来てくれるようになって、地域が活性化してほしいと思っています。

水かぶりのときに女性は来場者に豚汁を配っています。私も親から勧められて参加するようになりました。これからも地域のために、自分にできることをしていきたいです。

これからも地域のために
できることを

伝統を受け継ぐ
次世代の子どもたち



千葉湜太くん(米川小6年)
(東和町米川2区)

自分の地域の行事が登録されたことは、本当にすごいことで、うれしく思っています。

僕は4年生のときから参加しています。お父さんが参加しているのを見て、僕も早く参加したいと思っていました。この伝統を受け継いでいけるように、これからも毎年参加していきたいです。

伝統を受け継いで
いけるようにしたい